

**Users manual**



*How to use*

[www.curationer.jp](http://www.curationer.jp)

Yamazakiya Inc. 555-1 Naka, Chikuma City, Nagano Pref, 387-0017, Japan tel/fax:+81-26-272-2765 mail:info@curationer.jp www.curationer.jp



THE MANUAL  
OF  
CURATIONER

Volume 01 2021 January

## 納品時の注意事項とお願い

納品条件は原則、現地での車上渡しとなります。

納品時前後、以下の点にご注意及びご協力をお願い致します。

- 納品時、製品本体は非常に重量がありますので、最低4人から重量に応じた適正人数による車上からの荷下ろしをお願いします。
- 納品は製品に伴い路線便及びチャーター便による配送となります。運転手は原則荷下ろしのお手伝いしかできません。現場内指定場所(間配り)や上階への搬入は一切お受けしておりませんのでご了承ください。配送の時間指定や作業補助人員、ユニック車(上階への搬入不可)の手配は別途有償となりますので、納品1週間前までにご相談下さい。
- 受領時、運転手立会いのもと、商品の検品を速やかに行い、欠品、異常、破損等がないかをご確認ください。特に商品梱包に異常や破損が見られる場合、念入りに検品をしていただき、商品に異常や破損がある場合にはその旨を運転手に伝え、受け取らずに持ち帰ってもらってください。※後日、商品の異常や破損等を発見された場合は、納品日より1週間以内に弊社までご連絡下さい。その際、原因がメーカー、輸送時、現場のいずれに起因するかの判断基準となりますので、状況詳細のご連絡と梱包材及び商品の厳密な保管をお願いします。お手数ですが証拠写真等を撮っておいていただくと対処が迅速になりますのでご協力をお願いします。商品引き取り後の検品で明らかに現場で起きたと思われる異常や破損が発見された場合、対処が有償となりますのでご注意ください。
- 後日、商品の異常や破損等を発見された場合でも、納品日より1週間以上経過した場合や、施工後明らかに現場で起きた異常や破損等のクレームは対処が有償となる場合がありますのでご注意ください。
- 現場にて不要となった梱包材等は、原則全て現場での処分をお願いします。弊社にて引取、処分する場合、別途有償となりますのでご了承ください。

## 使用上の注意事項

本製品を使用する上で以下の注意事項を必ずお守りください。

※以下は取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定されるか、軽傷又は物的損害が高いことを示しています。

- 開閉部分に手や指などをはさまないようご注意ください。  
開閉作業を行うときは、必ずハンドルをしっかりと掴みゆっくり行うようにしてください。
- 強風時は必ず窓を閉め、ロックをしてください。  
窓を開けたままにすると、突風などで窓が急激に閉じ、手や指などがはまれ骨折などの危険があります。
- 万が一ガラスが破損(ひび割れ)した場合、ガラスの破片の取り扱いには十分ご注意ください。  
手や指等を怪我する危険があります。
- 本製品はゆっくり開閉してください。  
本製品を開閉する際、机や台にのって開けたり、無理に外側に押し出すと、反動により屋外へ放り出される危険があります。
- 本製品にはぶら下がったりしないでください。  
窓、扉が落下し、破損する恐れがあります。
- 金具などで手を切ったり指をはさんだりしないよう、十分気をつけてください。
- 本製品付近には美術品や工芸品を置かないでください。  
ドアの開閉による振動や突風による急開閉の衝撃で破損する恐れがあります。
- 木部、金具部は定期的なメンテナンスと点検が必ず必要です。

※以下は取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性は少ないが、障害を負う危険が想定されるか、物的損害のみの発生が想定される事を示しています。

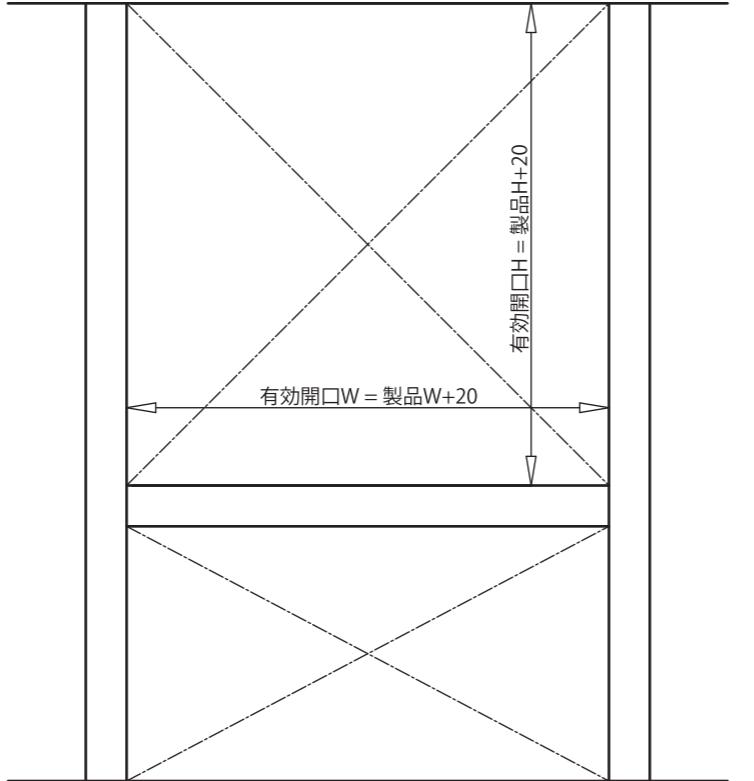
- 窓の障子が施錠(ロック)されている状態の時は、無理に開閉しないでください。  
窓本体、金具等の破損の原因となります。
- 窓本体は分解や改造をしないでください。
- 開閉方向以外の無理な開け方はしないでください。  
窓本体の開閉不良または破損の原因となります。
- ハンドルや金具の固定ビスに緩みが生じていないか定期的に点検してください。緩んでいた場合はビスを締め直してください。

## 施工について

### ①開口部の準備

開口部の構造体は製品寸法の幅、高さに対して四方 10mm のクリアランス（右図参照）を確保してください。

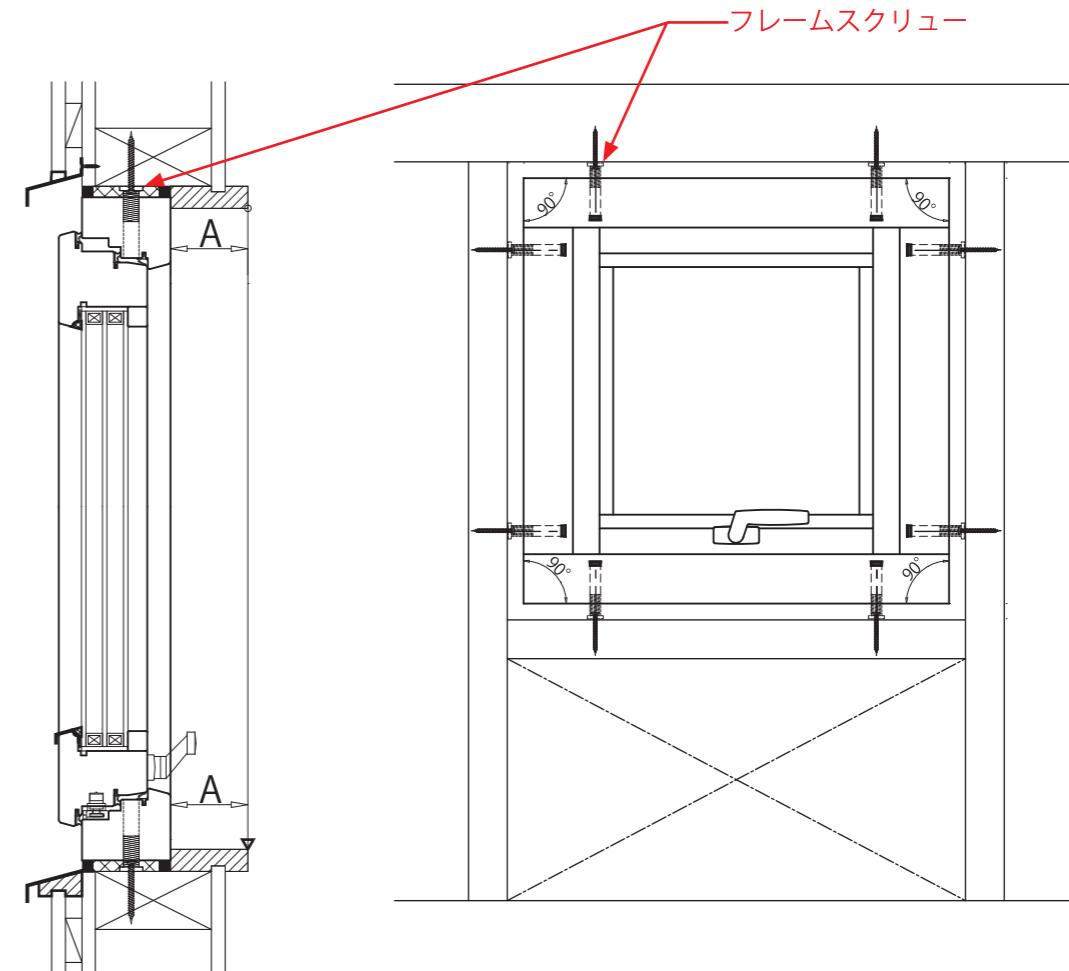
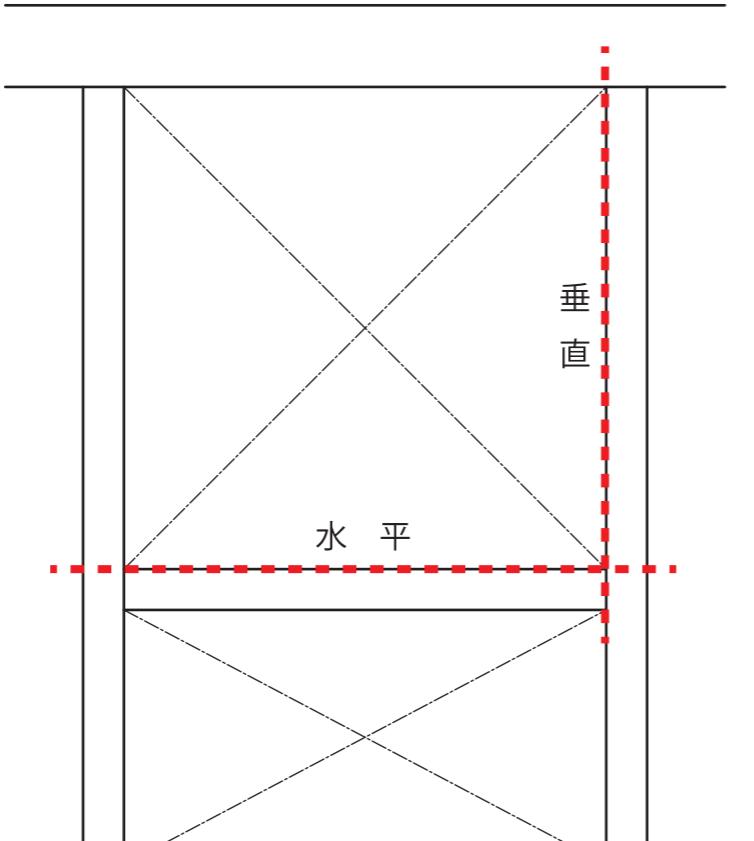
※製品及びサイズにより、非常に重量が重くなるため、製品に適した構造体を準備してください。



### ②垂直、水平の確認

開口の準備が完了したら、窓台の水平レベルを確認し、サッシを開口部に設置してください。仮置きの状態では倒れる危険性があるので、倒れ止めやクサビを用いて倒れないように仮固定してください。

※留付前に再度、水平及び垂直レベルはフレームスクリュー（留付用金物）により調整が可能です。

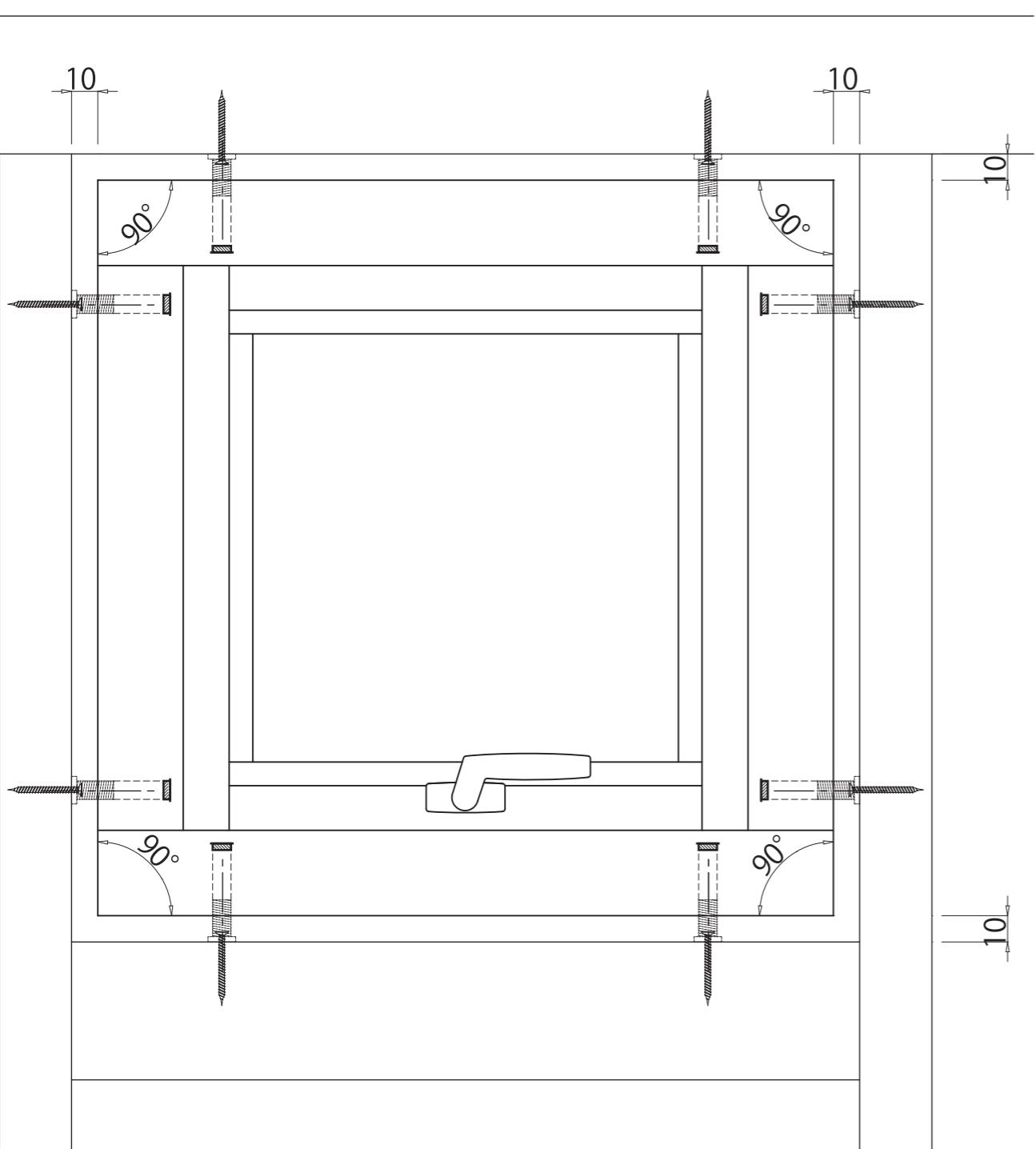


### ③位置決め

サッシの仮置が完了したら、内側からフレームスクリューに 10mm レンチを入れられるまで障子部を開きます。この時、障子を開いた方向に重心が移動し、倒れる危険性があるため、必ず二人以上でおこなうようにしてください。障子を開いたら枠の四方に設置してあるフレームスリューを、内側から 10mm 六角レンチを回転させて軸体にフレームスクリューで本体を固定するまで（位置決め）外部に押し出します。（フレームスクリューの使用方法については P.6 参照）四方 10mm のクリアランスに対し、サッシが中心となるように、フレームスクリューの出し入れでサッシの位置を調整してください。また、枠のねじれがないように前後の位置を調整（上図 A 寸法と同じ値に）してください。位置の調整が完了したら、内側から（フレームスクリュー内部）軸体に向かってビス（Φ5mm 以上）でサッシを固定してください。全ての固定が完了したら付属のビスキップで穴を塞いでください。

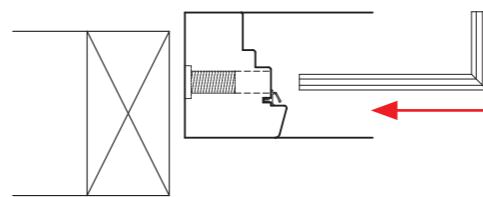
※サッシの水平、垂直レベルは ±1mm 以下になるように設置してください。レベルの許容範囲を越えるとサッシは正常に動作しません。レベル出しは慎重におこなうようにしてください。

## 施工フロー



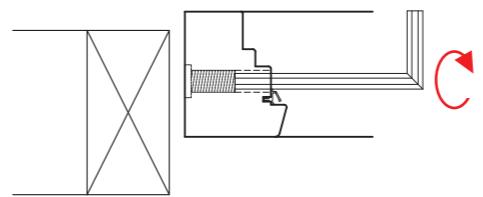
- ①開口部の準備（クリアランスの確保）
- ②開口部水平レベルの確認
- ③サッシの仮据付及び倒れ止め、くさび等による仮固定
- ④フレームスクリューの出し入れによる正確なサッシの位置決め
- ⑤サッシの垂直、水平レベル、ねじれの確認
- ⑥枠内側から軸体に向けてビス固定
- ⑦ビスキャップの設置

## フレームスクリューの使用方法



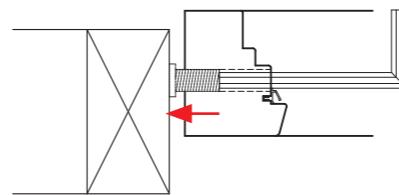
### ①フレームスクリューの確認

サッシの仮据付が完了したら、障子を開き枠にフレームスクリューが設置されていることを確認してください。枠の四方に設置されています。（参考位置は左図参照）



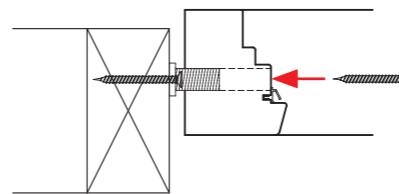
### ②フレームスクリューの調整

フレームスクリューの位置が確認できたら、10mm六角レンチを奥まで差し込み、時計回りに回転させてください。時計回りに回転させることで、枠外に金物が押し出されます。



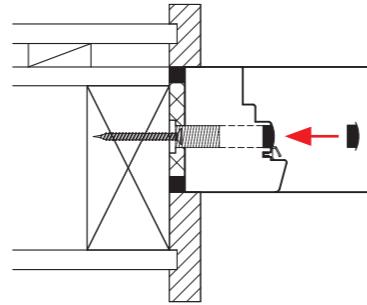
### ③フレームスクリューの位置決め

四方にフレームスクリューが設置してあるので、四方バランスよく出し入れをおこない、枠の据付位置を正確に決めてください。この時、片方に寄つてしまわないように注意してください。**※必ず垂直、水平レベルの確認をおこなってください。**



### ④ビス固定

据付位置が決まったら、フレームスクリューの内側から軸体に向かってビス（Φ5mm以上）で固定してください。**※固定後は必ず動作確認をおこない、動作に不具合がある場合は位置を再調整してください。**



### ⑤ビスキャップの設置

ビス固定が完了したら、付属のビスキャップで穴を塞いでください。

## メンテナンス

天然木材で作られた木製サッシはどうしてもメンテナンスが必要となります。メンテナンスをおこなうことで数年後、数十年後に当初とは違った新たな表情に出会えるのが木製サッシの魅力の一つです。

### 塗装部分のメンテナンス



#### ●塗装期間

木部には耐候性木材保護塗料が塗布されています。新築後約1年目で再塗装を推奨しています。塗膜の痛み具合は経過年数、立地条件、方向、樹種により様々です。再塗装後は一般的に2~3年毎の定期的な再塗装をしていただくと、木部の美しさを保持することができます。

#### ●塗装箇所

木部全体に塗布してください。特に外部面は繰り返し多めに塗布してください。

#### ●塗装方法

- ①木部が汚れていないかを確認し、内外全て濡れた布できれいに拭いてください。
  - ②木部が乾いてから、手垢やゴミの付着、湿気の影響がある箇所を目の細かいサンドペーパー等で軽くこります。この時、塗装が落ちないように注意してください。
  - ③気密材、壁、ガラス、金物などの木部以外に塗料が付着しないように養生してください。
  - ④塗布されている塗料と同等品の塗料を使用し、刷毛（柔らかいもの）やコテバケで塗装してください。木部以外に塗料がついてしまった際はシンナーなどで拭き取ってください。
- ※塗装メンテナンスにつきましては当社でも対応させていただきます。（有償）
- ※塗料、ハケ等の塗装に必要なものは、当社からも購入いただけますので、当社までご連絡ください。また当社のホームページからも購入いただけます。

### 複層ガラス部分のメンテナンス及び注意事項

#### ●日常の清掃について

ガラスは一般の洗剤を使った清掃方法が可能です。清掃する際は必ず窓がロックされているのを確認してください。

#### ●注意事項

冷暖房の吹き出し口を複層ガラス面に直接当てたり、複層ガラス面に密着して厚手のカーテンを吊ったり、洋服たんす等の蓄熱性のある家具などが置かれていると、熱割れを誘発する恐れがあるのでご注意ください。極端に温度の低い場所や急激な温度変化のある場所、湿気の多い場所は結露する可能性があります。

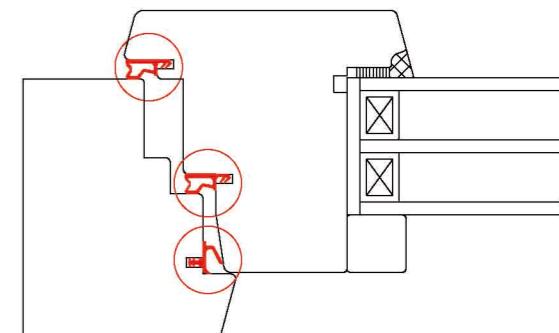
※シーリング材（ガラス部と木部をふさいでいるもの）は3~5年程度で劣化して、切り剥離する可能性があるため、定期的に点検、補修をおこなってください。

※ガラスが破損した際は至急、施工業者もしくは当社までご連絡ください。

### 気密パッキンの点検及び交換

#### ●劣化について

各部の気密パッキン（左図参考例）は経年による木部およびゴムの収縮がおこり、外れたり気密を保持できなくなる場合があります。気密材の劣化が著しい場合は施工業者もしくは当社までご連絡ください。交換品をご案内させていただきます。また当社のホームページからも交換品をご購入いただけます。



### 稼働部分（金物）のメンテナンス及び注意事項

#### ●稼働部（金物）の点検について

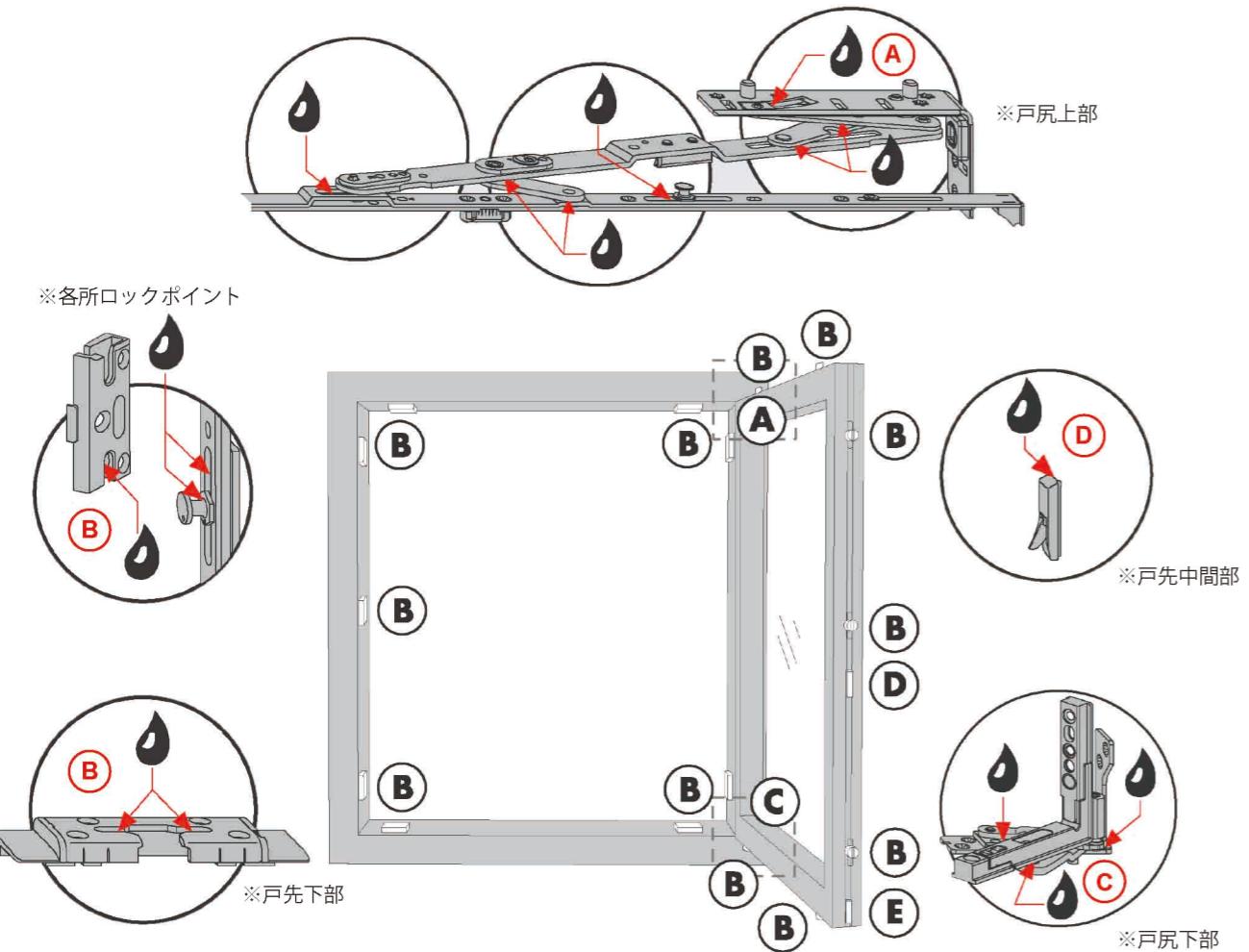
サッシの重みによる負荷は稼働部の金物に集中しているため、日常生活による使用頻度や重み、木部の膨張収縮や経年変化により、開閉の重み、硬さ、摩擦が発生します。定期的に稼働する箇所には潤滑剤でグリスアップをしてください。開閉に重みが感じられるようになった場合は、グリスアップにより改善される場合があります。

※グリスアップ箇所についてはP.11-12を参照してください。

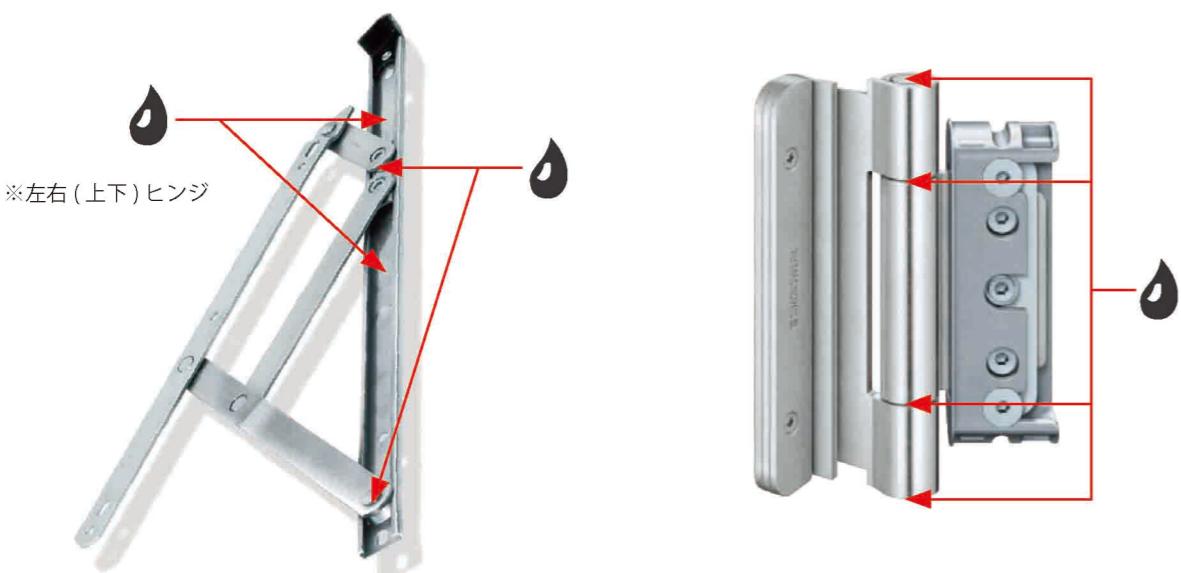
## オイルポイント

### ●オーニング、ケースメント、ドレーキップ、ドア稼働部共通

(※A,D,Cはドレーキップのみ)



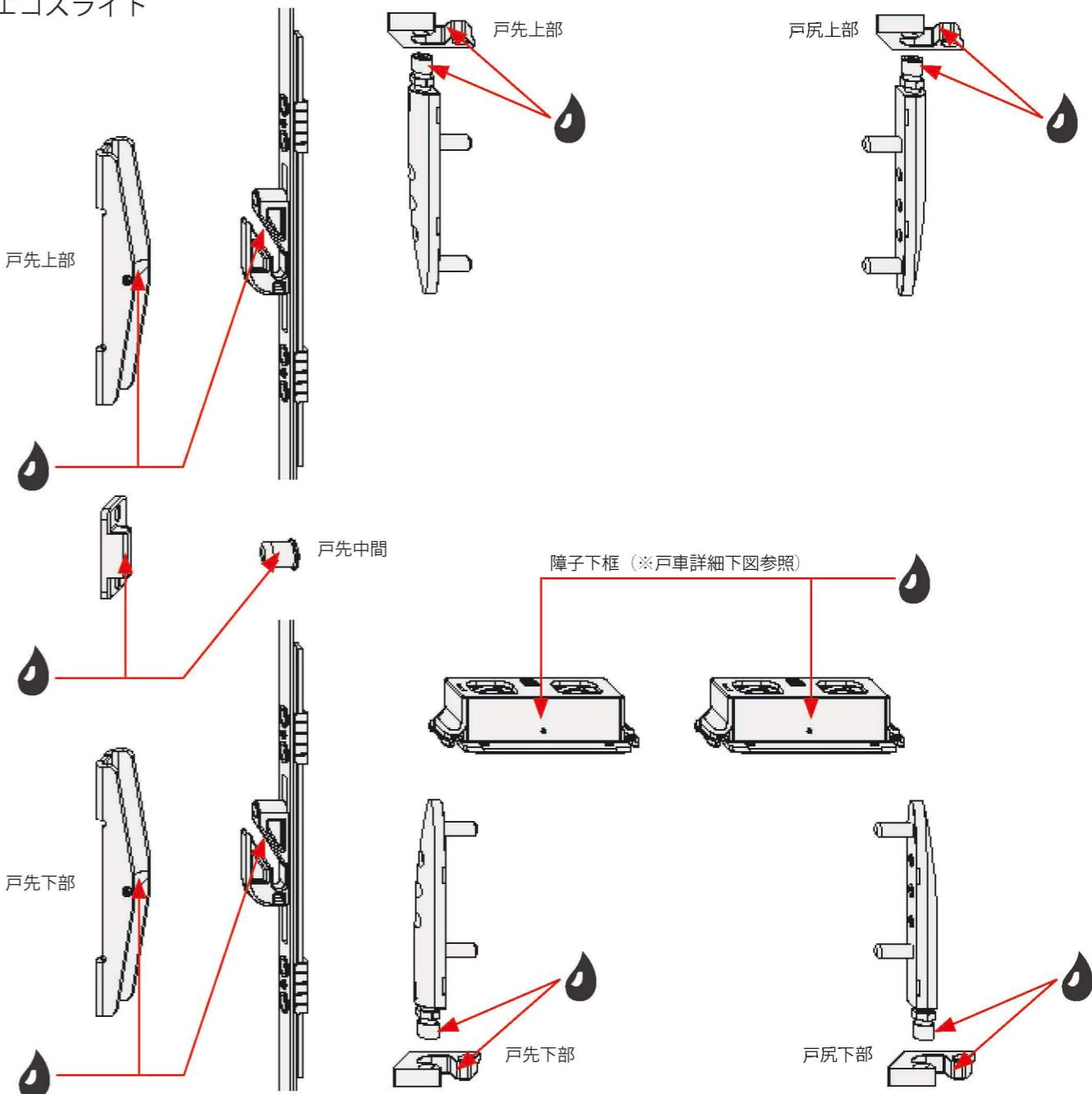
### ●オーニング、ケースメントヒンジ



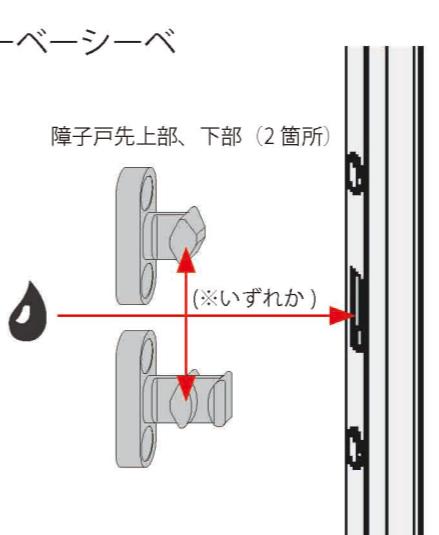
※潤滑剤はシリコン系オイル、または水気を含まないオイルを使用してください。

※ゴミや埃が付着した状態でグリスアップすると、ゴミや埃が凝着して稼働不良の原因となります。

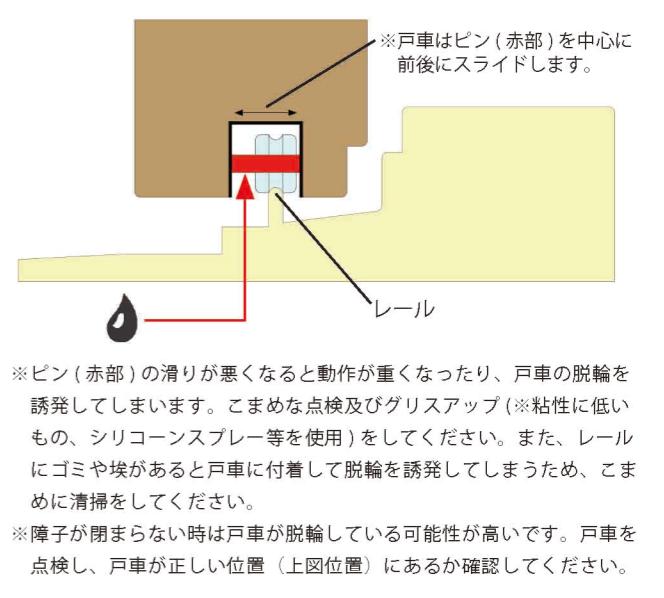
## ●エコスライド



## ●ヘーベーシーベ



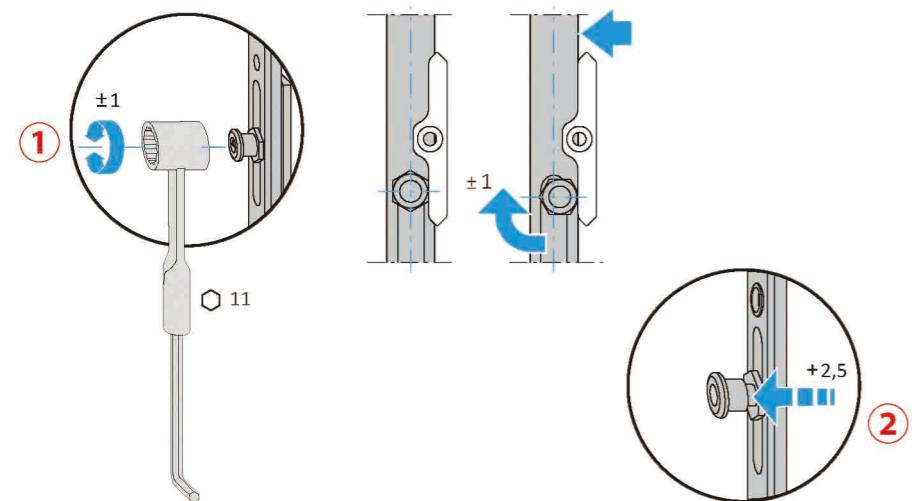
### ●エコスライド戸車詳細



## 調整方法

### ●オーニング、ケースメント、ドレーキップ、テラスドア稼働部共通

※ロックピン（共通）



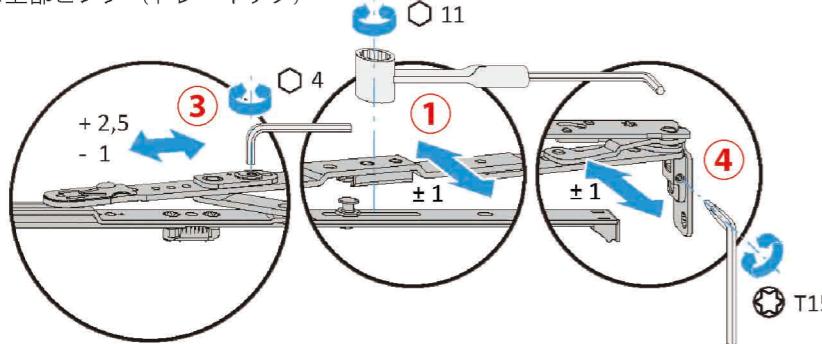
①ロックピンは11mmの六角でまわすと偏心しながら動き、前後の調整が可能です。気密材と隙間があるときや、サッシの締まりが弱い時に調整してください。

②ロックピンを引っ張ると2.5mm飛び出します。ロックピンのストライクへのかかりが小さい時に調整してください。

③4mmの六角を差し込み、回転させることで偏心しながら動き、前後左右の調整が可能です。障子がたれてしまっているときや、使用に伴い障子位置がずれてしまった時に調整してください。

④T15の星型レンチを差し込み、回転させることで戸尻上部の締まり具合を調整できます。締めすぎるとヒンジが破損する恐れがあるので、慎重に調整してください。

※上部ヒンジ（ドレーキップ）

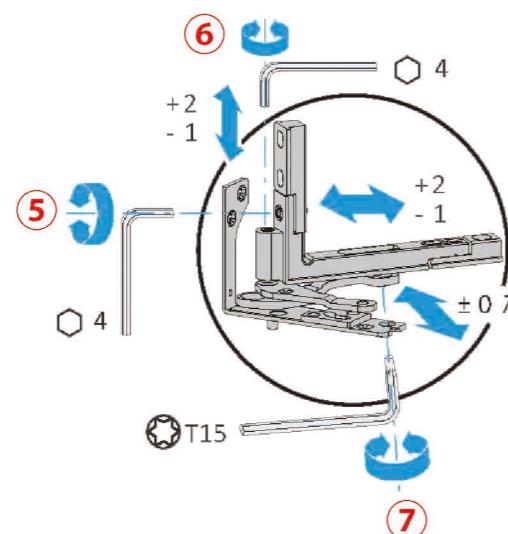


⑤4mmの六角を差し込み、回転させることで左右の調整が可能です。障子がたれてしまっているときや、使用に伴い障子位置がずれてしまった時に調整してください。

⑥4mmの六角を差し込み、回転させることで上下の調整が可能です。障子がたれてしまっているときや、使用に伴い障子位置がずれてしまった時に調整してください。

⑦T15星型レンチを差し込み、回転させることで前後の調整が可能です。障子がたれてしまっているときや、使用に伴い障子位置がずれてしまった時に調整してください。

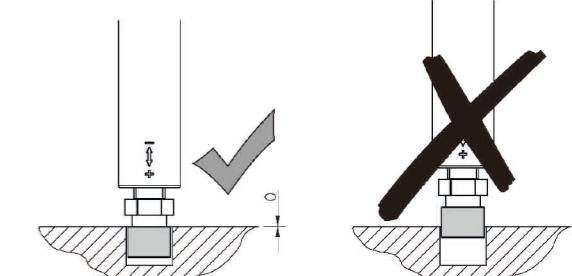
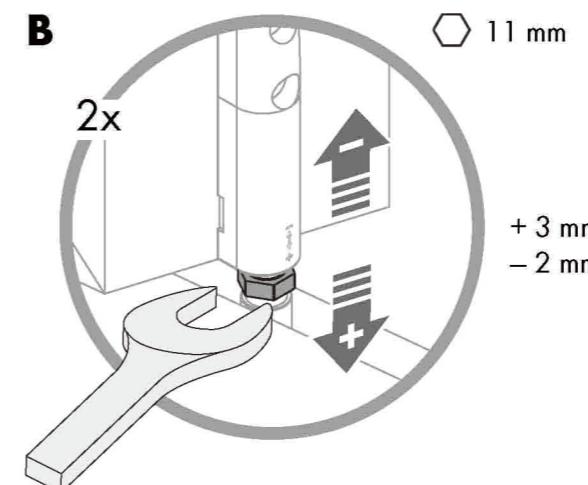
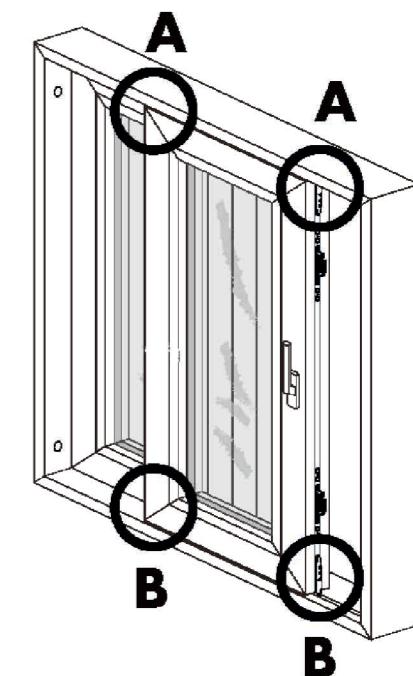
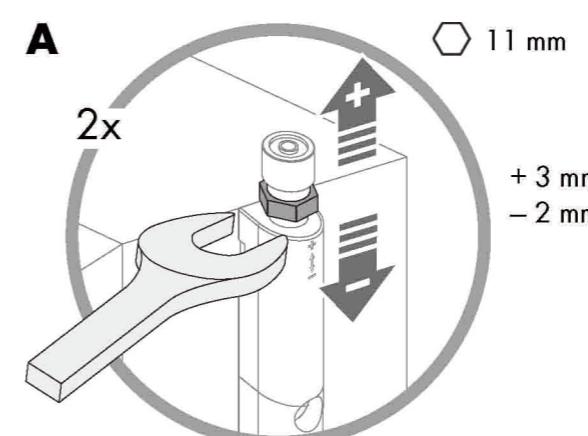
※下部ヒンジ（ドレーキップ）



※ヒンジ（ケースメント、オーニング）

⑧○内金色部(△形状)をマイナスドライバーでまわすことで、ヒンジの渋みを調整できます。サッシを開いた状態で保持できないときや、動きが重くなってきたときに調整してください。無理にまわしづぎるとヒンジが破損する恐れがあるので、少しづつまわし(半円程度ずつ)微調整してください。

### ●エコスライド



障子四方についているガイドローラーは11mmの六角スパナで回転させることで、ガイドローラー位置を上下に調整することができます。障子を取り外す際に上部ガイドローラーを短く調整します。障子を外した際や、ガイドローラーを調整した際は必ず規定(上図)の位置に戻すようにしてください。このガイドローラーが障子全体をささえているため、定期点検では上図のようにガイドローラーのローラー部が溝にしっかりと入っていることを確認してください。ローラー部が溝にしっかりと入っていないと障子が枠から外れて倒れる危険性があるため、必ず定期的に確認するようにしてください。

